第７２次印旛地区教育研究集会（社会科教育・中学校）

自分の考えを持つ・伝える・深める
社会科学習の在り方

成田市立吾妻中学校
宮原　隆太

1　研究主題

自分の考えを持つ・伝える・深める社会科学習の在り方

2　主題設定の理由

（１）　現代社会の要請から

平成 28 年（2016 年）より選挙権が 18 歳以上に引き下げられたほか，令和 4 年（2022 年）には成人年齢も 18 歳以下に引き下げられた。今まで 20 歳から様々な権利が認められていた社会の有り様からたった 2 年ではあるものの 18 歳に成人年齢が引き下げられたことで「責任ある大人」という自覚を持たせるための教育が必要になっている。社会科教員としてそのためにできることは，「投票にしっかり参加する，そのために自分の意見を持たせる」ことではないかと考えた。

（２）　学習指導要領から

本研究は,中学校学習指導要領の社会科第 2 章【公民的分野】の目標（２）「社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を現代の社会と関連付けて多面的・多角的に考察したり，現代社会に見られる課題について公正に判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う」に関連している。特に現代社会でどのような問題が生じているのか，それについて自分自身がどのように考えるかという段階にとどまらず，他者の意見にも耳を傾け，その点を受けて自身の考えを深められるようにできるよう授業において発問から考える場を設定する必要がある。

（３）　印教研主題から

よりよい社会の実現に寄与する「生きる力」を培う社会科学習 ～自ら課題を見いだし，自らの考えを表現できる児童生徒の育成をめざして～

それぞれの考えを持つこと，他者に伝えて深めることの意義は「よりよい社会」の建設である。社会というのは家族やクラス，その他の社会的コミュニティを指すと考えるとそこでのルール作りや生じるトラブルを解決するためには個々がどのような考えを持っているかということが非常に大切である。他者の意見に流されずにまずは自身の意見を持ち，表現できるようにしたいという今回の研究主題と印教研主題はリンクしていると言える。

（４）　生徒の実態から

成田市立吾妻中学校は成田ニュータウン内の吾妻地区，はなのき台地区，橋賀台地区から生徒が通っている。近年はなのき台地区の宅地開発が進み，学校規模もここ数年で急に

大きくなった。生徒数は５０４名，各学年５クラスの大規模校である。

今回の研究では主に筆者が担当している３年生の１クラスを対象としている。研究を行うに当たって実施したアンケートの詳細は資料編に掲載する。

趣旨をまとめると以下のようになる。

■自分自身の考えをまとめることが「得意」または「どちらかといえば得意」と感じている生徒が約３分の２を占める中,「どちらかといえば苦手」も約３分の１存在した。

■半数以上の生徒が社会科学習で好きな活動は「調べる」,「話を聞く」,「ノートを作る」と答えたが,「自分の考えをまとめる」,「考えを発表する」を答えた生徒は全体の約４分の１に留まった。

■令和４年４月から１８歳が成人になったことを知っている生徒は全体の約４分の３いた。理由については投票などで若者の政治参加を促すため，社会活動に参加させるためなどの意見が寄せられた。

■テレビやネットのニュースをほぼ毎日見る生徒は全体の半数以下，全く見ない生徒が１０パーセント強存在した。

以上のことから自分自身の考えをまとめることを苦にしない生徒は多いが，自分の意見を発表する（伝える）ことに抵抗を持っている生徒が多い。新型コロナウイルスの影響でグループ活動などを控えるなどの影響もあり,「伝える」,「深める」活動が少なくなっている現状を考えると，今回の研究テーマを通しての授業活動で生徒の成長が期待できることを感じた。

3　主題について

今回の研究テーマとなっている「(意見を）持つ・伝える・深める」という三段階について以下のように考えた。

段階	内容	留意点
①　自分の考えを持つ	教員や仲間の意見の模倣ではなく，自分自身で調べて課題（問題）に対する答え，考えをもつ。	自分が根拠にしたことを明確にしておくと次の「伝える」段階への移行が行いやすい。
②　自分の考えを伝える	①の段階で持った自分の考えを他人へ伝えること。伝えやすくするために説明の根拠，及びその伝え方を工夫できるようにする。	自身の考えを伝えるだけでなく，仲間の意見を聞き，次の「深める」段階へのステップとする。

③　自分の考えを深める	②の段階で仲間との意見交換も交わしながら自分自身の考えをもう一度振り返る。自身の考えを改める機会を与えながら精錬していく	考えはさまざまなきっかけで変わる。始めに出した考えが絶対のものではないことを感じさせ，他者の意見で深めるきっかけになったものがあればその点を明らかにする。

4　研究の目標

自分の意見を持つ・伝える・深める機会を設定した授業を通して生徒の社会科学習に対する姿勢が高まることを明らかにする。

5　研究の仮説と手立て

仮説その１

教材アプリを活用することで自身の考えが整理され,「伝える」活動を充実させることができるだろう。

手立て①　教材アプリ「ロイロノート」について

「ロイロノート」はクラウド型授業支援アプリで成田市の小中学校で配布されているタブレットから利用可能なアプリである。教員が与えた課題に対して生徒はまとめ図や記録した写真などを活用しながらデータ作成を行うことができる。また提出したデータはクラス全員で閲覧可能となる。

手立て②　今回の研究での「ロイロノート」

現代社会の特色の調べ学習において一人一人がロイロノートを活用し，まとめ作業を行う。まとめの形式について特にひながたは出さなかったが，人に見てもらうことを意識して作成させた。また現代社会の見方や考え方ではクラスの課題を解決する学習を行い，班で１つ解決策のプレゼンテーション資料を作成して発表に活用させている。

仮説その２

意思決定を迫る場面を設定することで生徒の多様な意見を引き出すことができるだろう。

手立て①　発問について

現代社会の特色の調べ学習においては「少子高齢化」,「情報化」,「グローバル化」を

基本として調べ学習を行うが，その際に「どのような問題点が存在するか」「自分自身でどのような解決策があるか」という 2 点を意識させて発表の際にも聞き手に問題提起(発問)に対しての答えを考えさせる手法をとった。

また効率と公正についてはクラスの中でのルール作りや課題解決を図ることでクラス内の主権者である意識を持たせられるような問題提起を行うように工夫をした。具体的にはクラスの共用スペースであるロッカーを不公平なく使えるようにするためにはどうすればいいのかということを考えた。自身の考えや行動が生活に直結するため，意欲的に活動に参加できると期待した。

手立て②　話し合いの形について

「現代社会の特色」の学習ではそれぞれが調べ学習を行いながら現代社会における課題設定と自身が考える解決策をプレゼンテーションする。この学習の話し合いは４人から５人の班単位で行い，解決策に対しての意見をコメントカードに記入して最後に発表者に渡す形をとった。

「現代社会の見方や考え方」の学習ではクラスの問題解決をはかるために班単位でのプレゼンテーションの作成後に発表し，クラスで解決策を多数決で決定する全体での話し合いの形をとった。

6　単元の構想

東京書籍「新しい社会　公民」の第１章「現代社会と私たち」の中から第１節「現代社会の特色と私たち」と第３節「現代社会の見方や考え方」を１つの単元として考えて単元構成を行った。そのねらいは前半部で日本の特色とその点から見えてくる問題というマクロな視点，後半部で私たちの身近な生活で起きるであろう問題点を今回のテーマである「(自分の意見を)持つ・伝える・深める」活動を通して解決につなげられることを期待してのものである。

○指導計画

<table>
<tr><th>時数</th><th>内容</th><th></th></tr>
<tr><td>1</td><td rowspan="3">現代社会の特色と私たち</td><td>【現代社会の学習ガイダンス】
自分自身の考えを「持つ・伝える・深める」流れの説明。
次回からの現代社会の調べ学習の流れの説明</td></tr>
<tr><td>2</td><td rowspan="2">【考えを持つ】
私たちが生きる現代社会にはどのような特色，課題があり，解決するための手段としてどのような手立てがあるかそれぞれロイロノートを活用して考える。</td></tr>
<tr><td>3</td></tr>
</table>

4		**【考えを伝える・深める】** それぞれが調べた内容を発表し合ってコメントカードに同じグループの発表者にコメントを記す。それを基に自身が調べた内容の課題についてどのような考えの変容があったかを記述する。
5	現代社会の見方や考え方	**【問題解決の手段を学ぶ】** 「対立」から「合意」に至るまでの方法や「効率と公正」の観点から課題を解決することを学ぶ。
6		**【考えを持つ・伝える・深める】** クラス内での問題･課題についての解決策を班で話し合い，班で１つプレゼンテーション資料を作成する。
7		**【考えを持つ・伝える・深める】** クラス内での問題・課題についての解決策を班ごとにプレゼンテーションし，クラス内でルールの決定を行う。

○ロイロノートの活用と話し合いの形

	ロイロノート	話し合い
現代社会の特色とわたしたち	１人１つのまとめ資料作成。形式は問わないが，自身の課題と解決策を織り込むこと	班単位での発表形式
現代社会の見方や考え方	班で１つのまとめ資料を作成。解決策をわかりやすく示せるようにする。	クラス全体へ提案後，多数決で解決策を決定

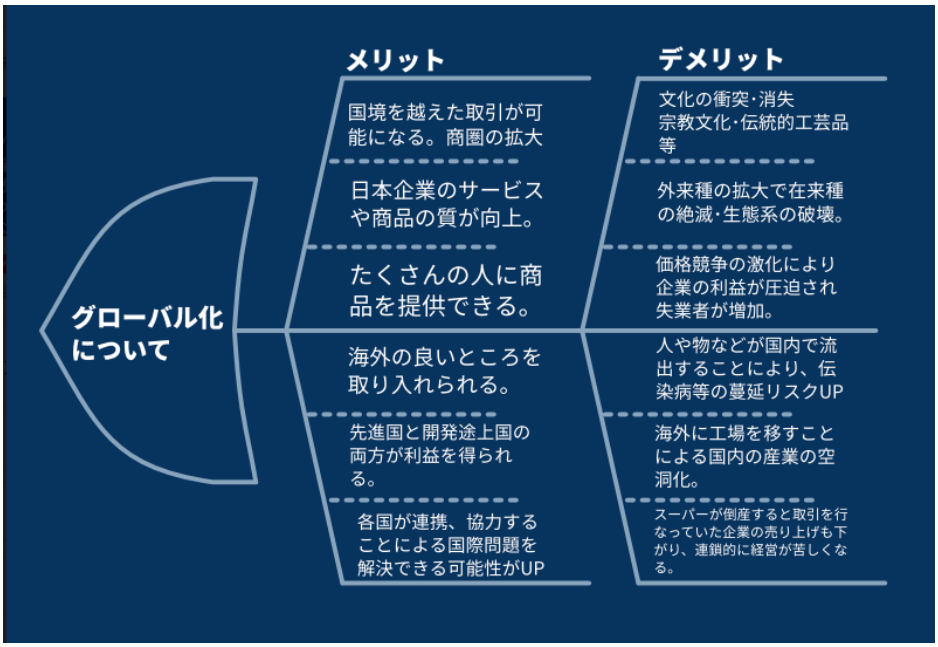
７　研究の実践

Ａ　現代社会と特色と私たち

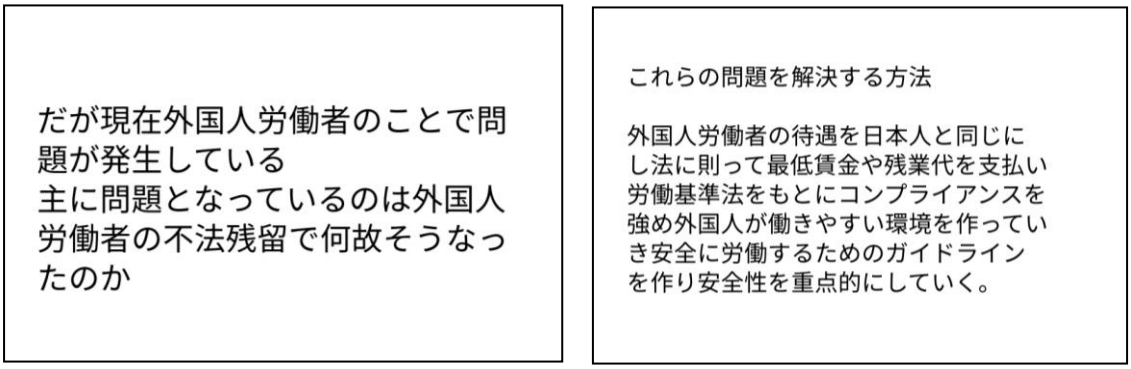
①　【課題テーマの設定と自分の考えを持つ】

４人班に分けてその中で「情報化」,「グローバル化」,「少子高齢化」の３テーマまたは「その他」について１人１テーマを担当し，レポート作成を行った。「その他」については現代社会に基づくものであれば可とし，特に細かい設定を行っていない。生徒から挙がった「その他」のテーマ「外国人労働者の問題」,「環境破壊」「SDG s 」について扱ったものが挙げられた。

テーマ設定を行った後はレポート作成の段階に入る。ロイロノートから一人一人が工夫してレポート作成を行った。レポートにおいてはそのテーマにおける特質（メリット・デメリットを含む）や課題，そして課題に対する自身が考える解決策を示すようにした。この段階でテーマについてまとめながら自身の考えを持つことがキーポイントである。生徒が作成したスライドの一例を以下に示す。



グローバル化についてまとめた生徒のスライドの一部。グローバル化のメリットとデメリットについてロイロノートのシンキングツール（フィッシュボーンズ）を用いてまとめている。

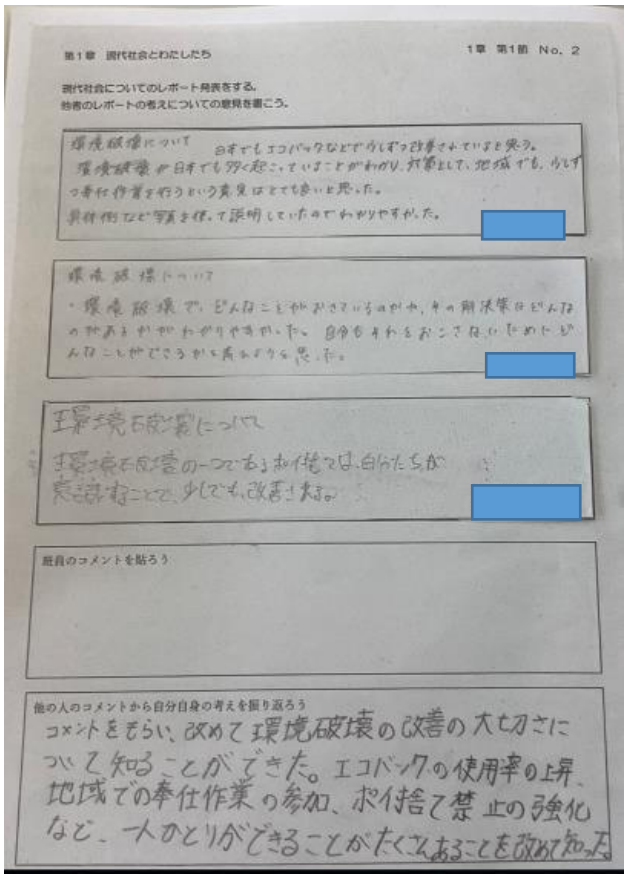


外国人労働者についてまとめた生徒のスライドの一部。どのような課題があるかという分析から自身が考えた解決策を示している。

② 【自分の考えを伝える・深める】

4 人班の中で調べたテーマについて発表会を行った。発表前にコメントカードを配布し，班のメンバーが発表したことに対して自身の意見を書くよう指示した。また発表につ

いては聞き手がいることを意識してわかりやすく説明するよう伝えた。ロイロノートの資料は共有できるため聞き手はタブレット画面から発表者の資料を見ながらそれぞれが見つけた課題とその解決策を確認することができる。



コメントカードの一例。上３つは同じ班のメンバーからの意見・感想が貼られている。一番下にはコメントを受けての自身の考えや感想を記している。（左）
話し合いの風景（上）

B　現代社会の見方や考え方

①　【テーマの設定】

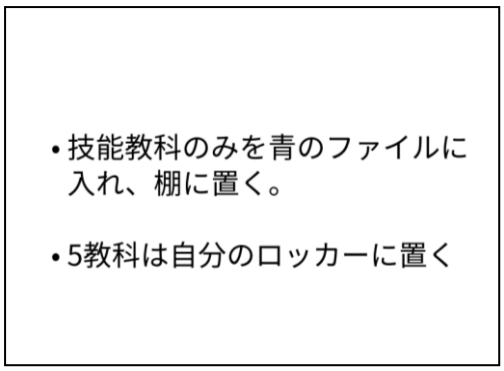
一人一人が主権者であり，意欲的に問題解決に取り組めるようにあらかじめクラス内で生活する中で解決を図りたい議題についてアンケート調査をとったところ，「ロッカーの使用に平等性を欠く」という意見が多く見られ，その点について解決を図ろうと考えた。

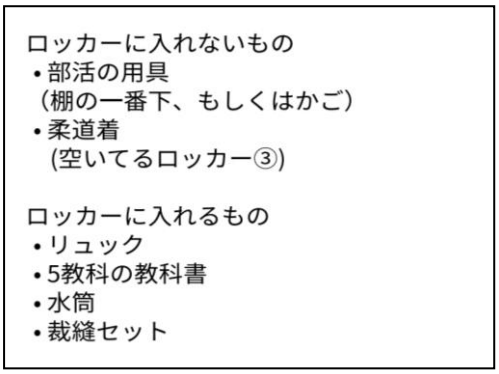
②　【意見を持つ】

問題の解決に当たり，班の中でまず班の中で解決策を話し合わせ，ロイロノートを活用して資料を作成させた。ロッカーの寸法を測る生徒や１人１つ与えられているカラーボックスにどれだけの物が入るかなどを確認しながら積極的に解決策を考えている生徒が多く見られた。

③　【意見を伝える・深める】

班で作成した資料を用いて各班の代表者を中心にクラス全体に向けて発表を行った。発表後には質疑応答をして，すべての班の発表後に多数決で解決を図る方式をとった。意見を聞く立場の生徒がほとんどであったが，多くの生徒が真剣に耳を傾けて解決策を比較・検討していた。





解決策が採用された班のスライドの一部と発表の様子。ルールを細かく規定したほか，置き方の例もわかりやすく示した。ほかの班でも写真を活用して置き方の例を示したスライドが見られた。

8　仮説の検証

仮説その１

教材アプリを活用することで自身の考えが整理され，「伝える」活動を充実させることができるだろう。

この仮説の検証について前にも示したように多くの生徒が思考ツールを活用して自身の考えを整理することができた。フィッシュボーン図以外にもベン図や X チャート，ウェビングなどそれぞれがまとめやすい物を適宜選択して活用していた。事後アンケートでは自己評価であるが８割以上の生徒が「自分の考えをロイロノートにまとめられましたか」の問いに「４」か「５」の数字をつけていた（５段階評価で５に近いほどあてはまる)。考えを

まとめるに当たってロイロノートの活用は一定の成果をあげたと言える。

仮説その２

意思決定を迫る場面を設定することで生徒の多様な意見を引き出すことができるだろう。

現代社会の特色の調べ学習では個人で調べた内容について様々な課題と解決策を示すことができていた。特に「情報化」,「グローバル化」,「少子高齢化」以外のテーマについて調べた生徒は現代社会の特色を実生活から分析し，浮き上がる課題をよく調べ上げていた。その後の班での発表会でもそれぞれが調べ上げたことについてはっきりと発表し，聞き手は意見や感想をしっかり記入していた。

クラスでの課題解決について自分たちの実生活の問題を取り上げて解決を図ることを試みた。自身の生活に直結するため班で解決策を話し合う段階から活発な意見交換が行われた。事後アンケートで「クラスの課題を解決する学習では自分の考えを持つことができたか」という問いに９割近い生徒が「４」または「５」の評価をつけた。実生活につながる問いの設定をすることで生徒の多様な意見を引き出すことに十分な効果があったといえるだろう。

９　成果と課題

〇成果

・ロイロノートを活用して自分自身の意見をまとめることができた。ひながたの指定をせずに多様なまとめ方や意見が出たことで生徒は考えのまとめ方を理解し，使いこなすことができたと言える。

・自分自身でまとめたことをはっきりと班での発表に生かすことができた。まとめた媒体をしっかりと発表に活用していた。

・事後アンケートにおいて「現代社会，クラス課題の学習で他人の意見から自身の意見を深めることができましたか」という問いに８割以上の生徒が「４」または「５」の評価をつけた。様子を見ていても身近な実生活の課題を取り上げて解決策を話し合わせることで多様な意見が生まれ，班の中での意見調整などを通して自身の考えを深めることができていたと考えられる。

・事後アンケートからロイロノートの授業での活用について「それぞれが作成したスライドを画面共有して見合うことができるので意見交換が行いやすかった」,「定期的に活用してほしい」という前向きな意見が挙がった。

・目標としていた「自分の意見を持つ・伝える・深める機会を設定した授業を通して生徒の社会科学習に対する姿勢が高まることを明らかにする」という点において生徒たちが意欲的に課題の発見から自らの意見の構築，問題解決策の提案に至る一連の過程の中で主体的に取り組み，一定の成果が得られた。

〇課題

・事後アンケートにおいて「今回の授業で自分の意見を持つ，伝える，深める大切さを感じることができましたか」という問いに約７割５分の生徒が「４」,「５」の評価をつけた。残りの約４分の１の生徒が「２」または「３」と自信を持って大切さを感じることができたという評価をつけられなかった。

・意見を「持つ」,「伝える」ことは作成したスライドや発表の様子から確認することができたが,「深める」段階においてはよりよいルールの作成のためにほかの班の意見の部分採用などの手段をとることもできたかもしれない。また時間が経過する中で新しい課題が出てくることも十分にあり得るため、今後の様子も観察していきたい。今回、学習した点を２学期以降の地方自治の学習にもつなげていきたい。